

7  
令和2年

心の生涯学習誌  
れいろう



〈れいろうカレッジ〉(今月のテーマ)

# 今こそ家族を楽しもう

岩田啓成

モラロジー研究所 生涯学習講師

黒川伊保子

『妻のトリセツ』著者

株式会社感性リサーチ 代表取締役社長

〈思春期の処方箋〉

長期の休み明け

わが子が不登校になったら

花まる学習会 高濱正伸

# 思春期 の処方箋



7



花まる学習会 代表  
たかはま まさひろ  
高濱正伸

昭和34(1959)年、熊本県人吉市生まれ。算数オリンピック作問委員。日本棋院理事。平成5年に「メシが食える大人に育てる」という理念のもと、作文・読書・思考力・野外体験を軸にすえた学習塾「花まる学習会」を設立。子育てに悩む母親の救世主とも称される。『伸び続ける子が育つお母さんの習慣』(青春出版社)ほか著書多数。

反抗し、秘密を持ち、葛藤で心をヒリヒリさせている思春期の子どもたち。この時期の接し方について悩むすべてのお父さんお母さんに、「花まる学習会」の講師たちが心の処方箋をお届けします。

## 長期休み明けの不登校。

# 「みんなと一緒にじゃない」 ことを親がおそれないで。

## 不登校の何が一番の問題だと思えますか

長期の休み明けに多い相談のひとつが不登校です。思春期ともなると、子ども自身の意思や葛藤もあって、そう簡単に解決できない問題であることが多いのです。

では、不登校の何が問題なのか——。実はそこが一番重要です。

長年、私が多くの子と接してきて感じるのは、親としてはわが子が「みんなと一緒にじゃない」ことが不安というものが本質なのではないか、ということなのです。

みんなと同じように学校へ行ってしまうし、みんなと一緒に就職活動してほしい。親はそう願うもの。

しかし、結論から言うと、学校へ行っていないなくても活躍している人はたくさんいて、必ずしも道が閉ざされているわけではありません。そのことを念頭において、まず親御さんにこそおらかな気持ちでいてほしいと思います。「絶対に学校へ行かせなければ」と思う必要はないのです。

## 現場の声を知らぬ人に話を聞いてもらおう

「いい先生がいるって聞いて……」「何かいいアドバイスをいただけませんか」と親御さんが解決策を求めて必死になりすぎたり、混乱してしまったり、というケースもたくさん見られました。しかし、間違いないのは、親御さんの心が安心して安定した状態にいるのが大事ということです。これは、子育てにおいてどんな状況でも変わりません。誰かに親御さんの悩みをしっかりと聞いてもらおう、いいアドバイスをもらえなくても不安を受け止めてもらおうというのが第一。それは、例えば学生時代の友だちでもいいですし、ほかには自助組織のようなどころで「うちの子も不登校だったのよ」というお母さんに聞いてもらおうのもいい。

そういうお母さんは抱えている悩みの本質が分かるし、「心配だよね、分かる分かる、私もそうだったもん」と言ってもらえるから、それだけですと穏やかになるんですよね。わが子是不登校の心配もないという安全圏にいる

## ナナメのキーマン

では、子どもたちを実際に動かすにはどうしたらいいのか、というのが困りごとの根幹です。これは思春期論の基本ですが、やはり「ナナメの人」というのがカギになります。

杉浦さんの本にもこんな事例が書いてありました。引きこもりになってしまった子に、学校の先生が訪ねて行っても出てこない。ところが、「自分も二三年前そうだった」という若者が行って、「実は自分にもこんな経験があった、ちょっと話さないか」と声をかけると、その若者は顔も知らない相手だけれども扉を開ける。それがとても大事で、そういうキーマンとなる「ナナメの人」をなんとか探し出すというのが、具体的な策のひとつになると思います。

不登校は「これをやれば解決する」「あの人が行けばなんとかなる」というものではない、正解のない世界。個々で状況も心情も違うからこそ賛否両論あるものですが、そういう事例を含んだ現場の声が、救いのきっかけになるのではないのでしょうか。

